

25 事件・情報とメディア

1 学習目標

日常に起こる様々な事件・情報がメディアを通じてもたらされるのは、江戸時代以降のことである。こうした歴史及び現代の事件・情報とメディア・報道の在り方について学び、私たちと情報との関係性について理解を深める。単なる好奇心から情報に接するのではなく、その内容を正確に判断するという意識をもつ。

2 学習内容

- (1) メディアの変化と事件報道・情報伝達の変遷
- (2) メディアと文芸（小説・芝居など）との伝達の仕方の違い
- (3) メディアの総合的な理解

1 メディアの変化と情報伝達の変遷

事件・事故、あるいは金銭をめぐる話など、日本人の情報好きは「伝統的」なものかもしれません。出版文化が成立する以前は、うわさ話や手紙を通して情報は伝達されましたが、江戸時代に入って出版が盛んになると、瓦版（かわらばん）を通じて、より多くの人々に情報が伝達されるようになりました。しかし、うわさ話は健在で、書き留めた本も残されているほどです。その一方で、天皇・貴族・大名などにかかわる重大事件を扱った出版は許されず、写本（手書きの本）のしかたで事件の内容が流布したのも多数ありました。

コラム 大名もうわさ好き

うわさ好きなのは庶民に限りません。江戸時代の大名の中にもそうした人は多く、はなしの会を開いて情報交換する大名もいました。『元禄世間咄風聞集』は、ある大名の江戸藩邸における咄の会の記録で、仲の良い武士や、出入りの棋士たちが互いの「もちネタ」を披露し合いました。この中に収められている寝ぼけて切腹した武士の話などは、現代のテレビ番組でも取り上げられました。

明治以降は、新聞・雑誌など情報を伝える手段も増えたため、情報の伝え方はますます複雑になりました。できるだけ事実を正確に伝えようとするものから興味本位のものまで、情報の伝えられ方は多岐にわたるようになりました。そうした傾向は現在でも続いており、テレビやインターネットなど、情報を伝える媒体が増えるに当たって、事実 真実 を見極めることはますます困難になっています。

学習課題 1 情報の伝達の変化を調べてみましょう

- (1) 文献やインターネットなどを使って、江戸時代の瓦版から当時の人々がどのようなことに関心をもっていたのか調べてみましょう。

(2) 明治以降最近に至るまでの、様々な事件の中から一つの事件を選び、その伝え方の違いを調べてみましょう。各新聞の伝え方や、新聞と雑誌などメディアが異なる場合の伝え方を比較し、それぞれの特徴について話し合ってみましょう。

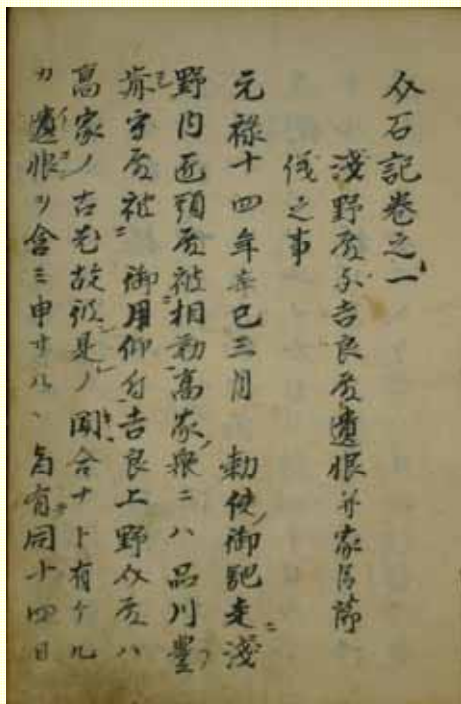
最近の事件について調べるときには、新聞とテレビのニュース、さらにはワイドショーなど、実際に見聞きした情報を取り上げてみましょう。そして、メディアの伝える姿勢や、自分自身の理解の仕方の違いなどについて話し合い、どのように情報とかがかわればよいかについて考えてみましょう。

2 メディアと虚構作品

メディアが事件や情報を伝える場合と、小説や演劇が事件を元にした作品にする場合とは、その内容や焦点の当て方が違ってきます。しかし、最初から虚構作品であると分かって読んだり見たりしているものが、いつの間にか、あたかも 真実 であるかのように思ってしまうこともあります。メディアの伝える 事実 と、虚構作品の伝える 真実 の分かれ目をどのように見分けるのか、情報社会に生きる私たちの判断力が試されています。

コラム 実説 実録 は本当のはなし？

江戸時代、出版することが難しい内容の事件は、写本のかたちで情報が広まりました。これらは「実録」などと呼ばれますが、必ずしも事実そのものを伝えてはいないようです。書き写す際に元の本にはなかったことを書き足す人も多く、その事件を題材にした歌舞伎の筋書きが、さも事実のように書き加えられたり、登場人物のエピソードがどんどん肥大化していく場合もあります。江戸時代最大の事件の一つ、「仮名手本忠臣蔵」で有名な赤穂浪士の討ち入り事件も、事件直後から数種類の「実録」が作られました。そこから事件の 事実 真実 を探り出すのはなかなか難しいようです。



赤穂事件を伝える 実録 『介石記』

学習課題2

メディアと虚構作品の特徴を調べてみましょう

(1) 事件を元にして作られた作品について、報道との共通点・相違点を考えてみましょう。また、同じ事件を、違う作家が取り上げている場合もあります。登場人物や時間の設定、事件の起きた理由などをポイントにして共通点や相違点を考えてみましょう。

(2) メディアは必ずしも 事実を伝えるだけではありません。時に、「事件をつくる」役割を果たしていることもあります。学習課題1とあわせて、事件の被害者の立場がどのように扱われているのかなどについて調べ、メディアの役割について考えてみましょう。

ノート例

| | 事件名「 」 | 作品名「 」 |
|-------|-----------|-----------|
| 登場人物 | | |
| 時間設定 | | |
| 事件の展開 | | |
| 結末 | | |

学習課題3 フィールドワークをして、メディアや情報について考えましょう

私たちはメディアから情報を受け取っているだけではありません。身の回りに起こった小さな出来事について伝えたり、話したりして情報を発信してもいます。では、メディアはどのように情報を発信しているのでしょうか。

日本新聞博物館（横浜市）や、新聞社・テレビ局などを見学訪問したり、新聞記者やテレビの報道関係者にインタビューする機会をつくらして、情報を発信する側の意識や取組について調べ、話し合ってみましょう。

〈参考文献〉

- ・中正樹『客観報道』とは何か 戦後ジャーナリズム研究と客観報道論 争』新泉社、平成十八年（二〇〇六）
- ・川上和久『情報操作のトリック その歴史と方法』講談社、平成六年（一九九四）
- ・草野厚『テレビ報道の正しい見方』PHP出版、平成十二年（二〇〇〇）
- ・『太陽コレクション かわら版・新聞 江戸明治三百事件』（平凡社）昭和五十五年（一九七八）



火事を伝える瓦版



錦絵新聞

26 現代の芸術にみる日本の伝統・文化

1 学習目標

現代の芸術の中には、日本の伝統・文化の影響を多く受けているものが少なくない。それらについて調査研究し、発表することで、現代的な視点から日本の伝統・文化について理解する。

2 学習内容

- (1) 現代の芸術と日本の伝統・文化
- (2) 日本の伝統・文化と世界の芸術
- (3) 日本の現代の芸術や文化の紹介

1 現代の芸術と日本の伝統・文化

現代の芸術には、日本の伝統・文化がその礎（いしずえ）となっていたり、インスピレーションを与えていたりすることが多くあります。例えば、みなさんは世界的に知られる龍安寺の庭、通称「龍安寺の石庭」を知っているでしょうか。幅二十五メートル、奥行十メートルほどの敷地に白砂を敷き詰め、帚目（ほうきめ）をつけ、十五個の石を五か所に点在させただけのシンプルな庭です。この庭を、いつ、だれが、どのような意図でつくったのかはいまだ謎に包まれ



『偏在の場・奈義の龍安寺・建築的身体』1994年

荒川修作+マドリン・ギンズ 写真提供：奈義町現代美術館

ています。しかしその美しさは、まさに日本独自のものと言えるでしょう。その証拠に「龍安寺の石庭」は現代においても世界中の人々の心をつかみ、訪れる人が絶えません。

建築家、磯崎新が設計した岡山県の奈義町現代美術館には、太陽を象徴化した巨大な円筒形の建造物があり、その内部に『偏在の場・奈義の龍安寺・建築的身体』という作品があります。制作したのはニューヨークを拠点に国際的に活躍する、荒川修作+マドリン・ギンズです。鑑賞者はまっすぐそこに立っているのに、周囲には真上からみた「龍安寺の石庭」を模した景色があるというもので、新しい身体感覚や知覚の形成を促す幻想的な空間となっています。

2 日本の伝統・文化と世界の芸術

日本の伝統・文化は、私たちにとって決して縁遠いものではありません。古くから現在に至るまで、世界中の人々から注目され、また、現代の日本人にも受け継がれているものです。

平成十八年夏に東京国立博物館で「若冲と江戸絵画展」として、アメリカ・カリフォルニアのジョー・プライス氏のコレクション展が開催されました。プライス氏自身が、半世紀前に当時日本の美術史家にも見過ごされていた江戸時代の個性的な画家たちの作品に目を奪われ、収集した作品による展覧会です。コレクションの中心は江戸時代の画家、伊藤若冲（いとうじやくちゆう）でした。伊藤若冲は近年若い世代にも人気を博し、最近では映像作家、紀里谷和明が歌手の宇多田ヒカルのプロモーションビデオで若冲の作品を使用していました。



伊藤若冲「松樹・梅花・孤鶴図」

（東京国立博物館所蔵）

日本の伝統・文化が海外に影響を与えたものはたくさんあります。代表的なところでは、浮世絵がゴッホなどのフランス印象派に影響を与えたことはよく知られています。

映画の世界では、黒澤明は海外でも広く名前が知られている日本映画の映画監督の一人であり、「世界のクロサワ」と呼ばれるほど、影響を及ぼしました。アメリカの映画監督、ジョージ・ルーカスは代表作『スター・ウォーズ』の登場キャラクターを、黒沢監督作品『隠し砦（とりで）の三悪人』から着想したと述べています。

ファッションの世界では、デザイナーのイッセイ・ミヤケ（三宅一生）が一九七〇年代に提案した「一枚の布」概念は、日本の和服や様々な布から着想されたと考えられ、デザインやアートの世界に大きな影響を与えました。イッセイ・ミヤケの「一枚の布」概念は、新しい技法の研究開発や伝統的技術の現代的応用という技術的な面を中心に、産地織物業にも多大な貢献を果たしました。

また、アニメや漫画などは日本独自の発展を遂げ、現在では世界的評価を得ています。

このように、日本の伝統・文化は世界的な芸術分野に影響を与えてきました。そして今なお、芸術や文化を生み出す源泉となっています。日本の伝統・文化の精神や美意識や技術が生かされた現代芸術について調べ、発表してみましょ。

学習課題 1 日本の現代の芸術や文化について紹介しましょう

海外の人に向けて、現代の日本の芸術や文化を紹介しましょう。

(1) 紹介するテーマ

(2) 紹介する内容を考えましょう。また、日本の伝統・文化がどのように生かされているのかについてもまとめてみましょう。

(3) 上記の(1)及び(2)を英訳しましょう。

(4) 他の人の発表で、興味をもったことを書きましょう。

コラム 受け継ぐこと、新しく作られること

みなさんは、伝統・文化と聞くと、随分昔のことであるかのよう
に感じるかもしれません。しかし、伝統・文化とは、まさに現代の
私たちの生活に密着しており、常日ごろそばにあり、関係している
ものです。つまり、伝統・文化は日々の生活の中で様々に形を変え、
生まれ変わり、また新たな文化となって現代へと連綿と受け継がれ
て生き続けてきています。それは、これまで受け継がれてきたもの
にとどまるものではなく、現代においても生成、発展を続け、未来
に受け継いでいきたいものすべてを含んでいます。

では、伝統・文化はこれまでどのように受け継がれてきたのでし
ょうか。それはどのような人々によって、どのようにして発展して
きたのでしょうか。そしてこれから、私たちはどのようにして、こ
の伝統・文化をつくっていくのでしょうか。



坂見英一さんは、東京都荒川区に工房を構え、仏具や茶道具など
を、昔ながらの製法を引き継ぎつつ、修復や制作を行う金工職人で
す。その仕事について坂見さんは
次ように、お話されました。

「道具はあくまで道具であり、
道具はそれを使う人の心次第で、
よいものとなる。道具を作る人は、
その使い手に応じて、よりよきも

のを作ろうと努力するもの。すなわち、互いの道が高まろうとする
ときによいものができる。」

ものが作られるとき、それは作り手と受け手がいてこそ、初めて
よいもの生まれるものであるということが分かります。

また技や心が受け継がれていくことについて「昔だれかが作った
ものを、今の私たちが、新しく加工したりすることはとても自然な
こと。そしてその形はその時々の人によって、変化している。また
それらは、未来においても、だれかがその時代にあつた形に変えて
いくだろう。しかしその技術や方法は、人の心や精神性が変わらな
いからこそ、残っていくのだ」ともお話されました。

日本の伝統・文化を受け継ぐことは、私たちの役目であると同時に
に、その「わざ」や「こころ」を通して、新しいものを作り上げて
いくことは重要なことなのです。



27 折り鶴を折る 野口宇宙飛行士による

「宇宙鶴」プロジェクト

1 学習目標

「折り紙」として代表的な折り鶴を折ることで、伝統・文化を体験的に学び、また、その象徴するところを「宇宙鶴」プロジェクトを通して、伝統・文化のもつ未来への役割や可能性を考える。

2 学習内容

- (1) 折り鶴
- (2) 野口宇宙飛行士の「宇宙鶴」プロジェクト

1 折り鶴について

今日私たちは、折り鶴をはじめとする様々な折り紙を楽しむことができます。代表的な折り紙には、鶴（折り鶴、連鶴）、風船、紙飛行機、手裏剣（しゅりけん）、兜（かぶと）、奴（やつこ）などがあり、これらの折り紙のことを、今日では「伝承折り紙」や「遊戯折り紙」と言います。

折り鶴の歴史は古く、江戸後期に『千羽鶴折形』という本が発行され、また一七九七年には『秘伝・千羽鶴の折形』が発行されています。現在では色紙で鶴を千羽折り、糸で長くつないで願い事のために奉納

したり、見舞いの品に贈ったりする千羽鶴が有名ですが、その起源ははっきりしていません。

しかし、鶴は古来より長寿やおめでたいことの象徴とされてきました。舞い降りる鶴の姿は、よいこと、めでたいことのある前兆「瑞兆（ずいちよう）」とされ、また、鶴は生涯つがいで添い遂げることから、情の深い動物ともされ、お祝い事の贈答品に折り鶴を添える習慣もあります。鶴にまつわる伝説が日本各地に残されていることから、優雅な鶴の姿は日本独特の美意識を反映していると言えるでしょう。

このような日本人とかかわりの深い鶴を折った折り鶴は、現在では平和活動を中心に様々な折りや願いを込めて人々に折られています。



学習課題1 折り鶴を折りましょ

う

- (1) 折ることができる折り紙の種類を書き出してみましよう。
- (2) 実際に折り鶴を折ってみましよう。
- (3) 折り鶴はどのようなときに折られますか。また、どのようなときに折ったことがありますか。

2 野口宇宙飛行士の「宇宙鶴」プロジェクト

平成十六年(二〇〇四)、野口聡一宇宙飛行士は、大気圏外に持参した折り紙を使って折り鶴を折りました。そして無重力状態の中、その折り鶴を飛ばしました。野口宇宙飛行士は折り鶴に込められてきた日本人の思いなどについて他の外国人のクルーに語りました。これら一連の「宇宙鶴」プロジェクトは映像として地上へ持ち帰られ、野口宇宙飛行士による「宇宙鶴」プロジェクトは成功しました。

はるか上空の宇宙で、一人の日本人である野口宇宙飛行士によって平和の願いを込めた折り鶴が折られ、折り鶴は宇宙空間を飛ぶことができたのです。宇宙からみた地球に国境はありません。日本の伝統・文化の一つの形である折り鶴は、人々に命の大切さ、平和の尊さを改めて強く印象付けたことでしょう。

このように、受け継がれてきた伝統・文化は、人々の願いや心を表すことができ、国境を越えて未来への夢や希望のシンボルともなることを、この「宇宙鶴」プロジェクトは教えてくれています。



写真提供 / JAXA

野口聡一宇宙飛行士による「宇宙鶴」

28 和からジャパンブランドの創出

1 学習目標

日本の生活文化は、歴史的に多くの国との関係を相互にもち、発展してきた。日本的な独自の文化とは何かを「和」という文字を中心にとらえて考察する。日本独自の文化が各国にどのような影響を与えたか、また日本文化を今後どのように創造し、世界に向けて発信していくかについての考察を行う。そして自分たちの新たなジャパンブランドを創出、発表し、日本の産業創出に積極的に関わるきっかけを作る。

2 学習内容

- (1) 和の言葉がもつ意味の確認
- (2) ジャポニスムの歴史的意義と内容
- (3) 江戸美術とアール・ヌーボー、印象派
- (4) ジャパンブランドの創出

1 和の言葉がもつ意味の確認

日本のことを「和」という言葉で表現することがあります。みなさんは、何をもって「日本＝和」と感じているでしょうか。日常の中にあるがゆえに普段は忘れかけながらも、実際の生活に根ざしている「和」の本質について考えてみましょう。

学習課題1 文化を表す言葉について考えましょう

グループになって、次のことについて考えましょう。

(1) 「日本」「和」の付いた、日本の文化に関する言葉を書き出してみよう。また「和」の他に「日本」を表す言葉があるかどうか調べよう。

(2) 日本語には、「呉」「唐」「漢」「洋」などを使って海外のものを表す言葉もあります。これらについても整理し、またその言葉がいつごろ生まれたかについても調べてみましょう。

| 字 | 書 | 文 | 紙 | (例) 服 | |
|---|---|---|---|-------|----|
| | | | | | 日本 |
| | | | | | 和 |
| | | | | | 呉 |
| | | | | | 唐 |
| | | | | | 漢 |
| | | | | | 洋 |

(3) 「和」「唐」「漢」「洋」が組み合わさってできている言葉にはどのようなものがありますか。また、その言葉の意味と成立時期についても調べてみましょう。

2 ジャポニスムの歴史的意義と内容

十八世紀のフランスでは、中国の芸術文化に憧れた「シノワズリー」「中国趣味」という言葉と同じく、「ジャポネズリー」「日本趣味」という言葉が生まれ、文化運動が起こりました。その後、十九世紀のフランスやイギリスなどで起こった日本美術への芸術的憧憬を「ジャポニスム（仏）」、「ジャポニズム（英）」と呼びます。これらは貴族階級に代わって力をもち始めた市民階級と知識人の支持を受けて広まっていきました。

ジャポニスム運動の原点になったものに、日本の有田焼や薩摩焼などの色絵磁器や、蒔絵（まきえ、漆で絵を描いて、金を蒔く漆器）、七宝、銀器、象嵌などの精緻な工芸品があります。この時期の日本は江戸時代で、技術的にも高いレベルに達した精巧な作品が各地で作られました。江戸幕府は藩ごとに技術を競わせ、また藩主も産業奨励に勤め、世界の国の人々を圧倒するほどの工芸品が生まれたのです。特に、有田焼の柿右衛門磁器は評価が高く、好まれました。需要が追いつかなかったため、ドイツのマイセンなどでは、有田焼の図案をまねて同じような磁器を作り始めます。

また、日本の蒔絵も、ヨーロッパ各国の王侯貴族にもてはやされてきました。こちらでも海外の需要は満たすことはできず、インドに産するラック虫をアルコールで溶き、顔料を入れて塗料とした、ラッカーと呼ばれる塗料を使い、図案もまねて、日本からの輸入品であるかのように作り上げます。これが英語の小文字で表される「apan」です。「apan」は日本で作られた漆器を指すと同時に、またヨーロッパ製の複製総体を指す言葉でもあるのです。

英語の「apanner」は、ヨーロッパ製複製漆器を作る人、「apanner」は

ラッカーを塗るという意味で使われました。日本の漆器をまねて制作していた地域は、ロンドン、パリ、ポントアムソン、アムステルダム、マイセン、ブランシュエバイク、ベルリン、ミュンヘンなどです。

学習課題2 ジャポニスムについて話し合ってみましょう

写真のように、ヨーロッパではたくさん蒔絵のレプリカ（複製）が作られました。ヨーロッパの人が日本の工芸品にあこがれて、各地でレプリカをたくさん作り、使っていたのは、日本の工芸品のどこに魅せられたからでしょうか。グループやクラスで話し合ってみましょう。



フランス製のペンケース
日本の風俗図を元に製作

3 アール・ヌーボー

「アール・ヌーボー (Art Nouveau)」は、十九世紀末から二十世紀初頭にかけて、ヨーロッパやアメリカ各地で起こった新しい芸術運動を指します。この元となったのは、イギリスのウィリアム・モリスが一八六一年に起こしたアーツ・アンド・クラフツ運動にあると言われています。機械によって同じ規格で作られる大量生産には美がないとし、人が手で作り出す工芸こそ美を生み出すといった運動です。この運動では、ロココなどの前世紀の美や、アフリカ美術、東洋美術に美の原点を求めました。その中でも特に日本の浮世絵のもつ美の世界に強い影響を受けました。

ジャポニスムの時代は、日本製の磁器や蒔絵をそのまま模倣していましたが、アール・ヌーボーでは、日本からの工芸品の図案構成、北斎漫画などの描写力などに感動し、素材を違えて、日本の美意識を再構成することに努めたのです。この運動は、建築、木工家具、ガラス工芸、ステンドグラス、陶磁器、織物、挿絵、ポスターなど様々な分野に波及していきました。

学習課題3 作品に表れた日本の美について考えましょう

写真の、ウィリアム・モリスの作品では、どこに日本の影響があると感じますか。話し合ってみましょう。



ウィリアム・モリス
デザイン製作オリジナル壁紙

4 印象派と江戸美術

印象派の画家たちであるマネ、モネ、ドガ、ゴッホらも、浮世絵の奇抜な空間構成、拡大と縮小、非対称などの構図や、対比的な色使いとぼかしの奥行き性などを研究し、自己の世界を広げていきました。ゴッホ、モネ、ルノアール、ロートレックなどの作品の表現方法を見ると、大きな影響を受けた事実を読み取ることが出来ます。

また現在では、印象派の作品は日本人にとって人気が高く、アムステルダム、ゴッホ美術館、パリのオランジュリー美術館にあるモネの睡蓮の部屋は日本人で満員になります。これらの印象派の作品にある何かを探ると、日本美術の本質が浮き彫りになるのかもしれない。

学習課題4 印象派の作品にみられる日本の美について話し いましよう

印象派の人々は、日本の美術の何に魅了されたのでしょうか。作品を鑑賞して、作品に具現化されている日本の美について話し合ってみましょう。

5 ジャパンブランドの創出

歴史を学ぶと、日本の美術文化は産業と結び付き、世界に大きな影響を与えてきたことが分かります。その伝統は受け継がれ、今でも世界中でメイド・イン・ジャパンはあこがれをもって迎えられています。これらは先人たちが造り上げてきた感性と技術力に裏付けされた日本の文化力によるものです。

学習課題5 新しいジャパンブランドを創出しましょう

次の世代を担うみなさんは、新しい日本を創出し、世界に向けて発信する力を秘めています。「和」としてとらえられる日本文化を探し出し、新しく海外に発信できる総合的なジャパンブランドを自由に発想してみましよう。

(1) 新しい「和」をつくり出すためのヒントとなる言葉を見付けてみましょう。

(2) その言葉を世界に発信する文章を考え、英語で表現してみましよう。また、それを発表してみましよう。



コラム 世界のショウ・ウィンドウから

この二枚の写真は二〇〇六年夏の、ロンドンの街のショウ・ウィンドウを撮影したものです。秋のファッションが並んでいます。このファッションのデザイナーもメーカーもヨーロッパの人ですが、どこことなく日本の図案・意匠から影響を得ていると感じませんか。世界を歩くと日本の美術・文化に触発されたものに出会うことができます。

29 日本的な感性を味わおう

手作り楽器に挑戦！

1 学習目標

和楽器の制作と演奏を通して、その響きの特徴を知るとともに、和楽器の発展の歴史や文化的背景を学び、日本の音を再発見し、日本の感性を味わう。

2 学習内容

- (1) 音の分析と聴取
- (2) 和楽器の構造と発音の仕組み
- (3) 楽器の制作と演奏

1 日本の文化と和楽器

日本人は、生活の中で生まれた音に風情を感じ、その響きを取り出して楽しむという習慣をもっています。例えば、風鈴は元来、魔よけとして日本に伝えられたものですが、現在では涼しさを運ぶ音具として用いられています。また「ささら」「鹿おどし」などのように、本来の機能よりも、音を発する機能の方が重視されるようになった道具も数多く存在します。つまり、日本人の生活においては、自然と音楽が調和していると言えるでしょう。楽器の発展もまた、環境や風土、そして民族的な感性と密接にかかわっています。日本における楽器の歴史や文化的背景を理解し、日本人特有の感性と美に対する意識にふ

れてみましょう。

2 和楽器の特徴

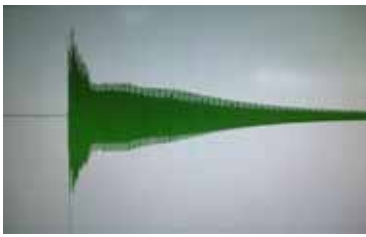





和楽器の最大の特徴は、繊細な音色とその変化にあります。三味線を例に考えてみましょう。駒一つで音色が大きく変化する地歌三味線では、奏者が幾つもの駒を持ち歩き、天候、楽器の状態、曲の雰囲気などによって使い分けると言います。また、音楽の種目ごとに、撥（ばち）、駒、糸も微妙に異なっています。西洋の楽器や大陸の楽器と比較することによって、その違いを実感することができるでしょう。

また、噪音（そうおん）は、倍音以外の上音をもつ音（の美が認められていることや、天然素材が多く使用されていることも、和楽器の特徴です。構造が極めて単純である分、奏法は複雑であり、微妙な音色や音程、余韻の変化などに対する研ぎすまされた感覚が要求されます。和楽器を実際に作ったり演奏したりしながら、様々な表現を追究してみましょう。

倍音とは、周波数が二以上の整数倍の音のこと。西洋の楽器は純粋な倍音のみを含むように改良が進められてきた。噪音は、倍音以外の周波数の音。打楽器の音の多くが噪音。邦楽器では、噪音のような一種の「うなり」を加えることで、味わい深さが引き出される。

学習課題 1 音を聴いてみましょう、音を見てみましょう

和楽器の音色を聴き、コンピュータに取り込んで波形を見てみましょう。また、形状の似通った西洋楽器の音色と比較してみましょう。

| | | |
|---|---|--|
|  |  |  |
| 三味線 | 尺八 | 和太鼓 |
|  |  |  |
| バイオリン | クラリネット | ティンパニー |

学習課題2 和楽器の素材や構造、奏法、発音の仕組みを調べま
しょう

(1) 三味線は、十六世紀に渡来して以来、日本の風土の中で、様々な改良が加えられて発展しました。どのような改良があったのか、次の三点についてまとめてみましょう。

- ・ さわり(一の糸近くにある仕組み)
- ・ 撥
- ・ 皮

(2) 三味線には、細棹、太棹、中棹の種類があります。それぞれの音の特徴と、その楽器が用いられる音楽の種類について、調べましょ
う。

(3) 三味線と三線(さんしん)を比較して、その特徴をまとめてみ
ましょう。

- ・ 素材
- ・ 奏法
- ・ どのような音楽で使わ
れたか。



(4) 琵琶(びわ)、箏(そう)、尺八、太鼓、雅楽で使われる楽器などについても、素材や構造、奏法、発音の仕組みについて、調べてみましょう。

(5) オーケストラの楽器が演奏される場所と和楽器が演奏される場所が、どのように違うのかを調べてみましょう。構造や材質の違いから、響きの違いを想像することができますでしょうか。



国立劇場・大劇場客席
(写真提供：国立劇場)



東京文化会館 大ホール
(写真提供：東京文化会館)

(6) 和楽器製作の現場を見る
東京には、様々な和楽器の工房があります。機会があれば訪ねてみましょう。

学習課題3 楽器を作りましょう

(1) カンカラ三線

(2) (びんざさら)木片と木片とを打ち合わせて音を出す古代楽器。石、竹、鉄でも作られる。



びんざさら

(出典『新訂標準音楽辞典』音楽之友社)

様々な素材を使って、びんざさらを作ってみましょう。どのような響きの違いが生まれるでしょうか。

(3) 和楽器の特徴をもった新しい楽器を考案してみましょう。

学習課題4 演奏しましょう

(1) 自分たちで作った楽器や和楽器を持ち寄って、自由に音を出し合ってみましょう。また、邦楽で使われる掛け声をまねて、楽器のアンサンブルの合間に声をかけ合ってみましょう。どのような効果が得られるでしょうか。

(2) 「序破急」の形成原理に基づいて、音楽を作ってみましょう。

| | | |
|-------------------------------------|--|----------------------------------|
| 序： ゆっくりという いるな楽器がバラバラ に出入りする。 | 破： 即興的な速いモチー フやゆっくりしたモチー フが交錯する。 | 急： 反復するリズム ムで大きな盛り上 がりを作る。 |
|-------------------------------------|--|----------------------------------|

(3) 波形編集のできるソフトが入ったコンピュータで、自作楽器の様々な音素材を取り込み、ミュージックコンクレートのよう加工編集して音響作品を作ってみましょう。

《参考文献・資料等》

- ・ 国立劇場事業部宣伝課編『日本の音楽』平成十三年(二〇〇一)
- ・ 小泉文夫『日本の音』平凡社、平成六年(一九九四)
- ・ 奈良部和美『邦楽器づくりの匠たち…笛、太鼓、三味線、箏、尺八』ヤマハミュージックメディア、平成十六年(二〇〇四)
- ・ 金城厚『ヤマトンチュのための沖縄音楽入門』音楽之友社、平成九年(一九九七)

30 ダンスと和楽器による総合的表現

1 学習目標

和楽器アンサンブルと創作ダンスのコラボレーションによって、新たな総合的表現をつくることを体験する。協力してアイディアを出し合い、どこにもない表現を創造し、発表する。

2 学習内容

- (1) 和楽器アンサンブルの鑑賞と実技体験
- (2) 振り付けの工夫
- (3) 総合的表現づくりと発表

日本の伝統音楽や伝統芸能には、様々な和楽器が用いられています。なかでも、箏や太鼓、あるいは三味線などに関しては、小・中学校において音楽科の授業や総合的な学習の時間などでふれる機会もあつたのではないのでしょうか。また、地域の祭囃子に参加するなどして、既に和楽器の演奏を学校外で経験している人も少なくないでしょう。あるいは、そうした実技体験はまったくなくても、有名な演目を聴いたことがあるかもしれません。

このように、和楽器は、個人によって体験レベルや知識・技能の習得状況に違いがあるかもしれませんが、和楽器アンサンブルと創作ダンスを即興的に組み合わせ、協力して新しい総合的表現へチャレンジ

してみましょう。そして、自分たちだけの新たな表現づくりを目指しましょう。

学習課題1 和楽器アンサンブルによる新たな表現を鑑賞し、また調べてみましょう

最近では、日本音楽の中でも、様々なジャンルや楽器のコラボレート（共同製作・共同作業）が見受けられます。また、西洋音楽の楽器と和楽器とのアンサンブルは決して珍しくありません。さらには、箏（ひちりぎ）や津軽三味線などの和楽器によるポップスなども生み出されていますし、楽器の独奏や合奏と日本舞踊等の踊りやダンスが組み合わせられた表現も盛んになってきています。

そこで、各自の興味・関心に基づいて、様々な和楽器アンサンブルを鑑賞したり、どのようなものが発表・発信されているのかを調べたりしてみましょう。

そして、学習の成果を発表し合つて、西洋音楽と日本音楽の違いやクラシックとポップスの違い、様々なコラボレーションに関する意見を交換しましょう。

学習課題2 興味・関心のある和楽器に触れ、基本的な奏法を学びましょう

興味・関心のある和楽器に触れ、基本的な演奏を学習しましょう。

ここでは、三味線を例に、基本的な奏法の学び方を紹介します。

(1) 姿勢と構え方

和楽器の演奏では、姿勢と構えが重要です。基本となる姿勢と構えをしつかり押さえましょう。

(2) 基本的な弾き方

開放弦の状態、系にはちを打ち下ろして音を出してみましょう。

(3) ばち先で糸を下から上にすくい上げて音を出す「すくいばち(スクイ)」、左手の指で糸をはじく「はじき(ハジキ)」を練習し、さらに「勘所(かんどころ)の押さえ方」をマスターしましょう。

(4) 「うたさぎ」「や」「さくら」を弾いてみましょう。



学習課題3 振り付けをイメージしながら和楽器アンサンブルを聴きましょう

振り付けを工夫するために、静かな雰囲気や拍節感の感じられない音楽として、雅楽の様々な調の「音取(ねとり)」「(雅楽の管弦などの際、序奏として、これから演奏される調のチューニングや曲の雰囲気や導く短い前奏曲)を聴いてみましょう。また逆に、大きな盛り上がりや激しい動きをイメージするために、津軽三味線による「津軽じょんがら節」や佐渡の鬼太鼓(おんでこ)なども聴いてみましょう。

振り付けを考えるヒント

(1) 音楽を聴いて自由にイメージを膨らませる。直観的なイメージが大切。場面を設定し、ストーリーを描き出してみる。また、イメージをスケッチしたりデッサンしたりして書き留めていくことも効果的である。

(2) 音楽から膨らませたイメージを具体的に動きで表現してみる。振り付けは、できることから始めることが大切。イメージしたことは素直に動きで表現してみる。

(3) 色彩的な効果は総合的表現には不可欠である。衣装などの色にも工夫を凝らす。また衣装は、ズボンの裾を縛ったり、帯や鉢巻きなどを活用したりして工夫しよう。

(4) 各自の動きや踊りを互いに評価し合いながら、イメージに合った振り付けを練り上げよう。

学習課題4 自由な発想を生かしてアンサンブル作品をつくり、和楽器の多様な表現を体験しましょう

曲の構成に関するヒント

- (1) 即興演奏を含む構成にする。
- (2) 開放弦の音からアンサンブルの可能性を探り、創作の素材を収集する。和楽器がうまく弾くことができない人も、開放弦を使った即興的なリズム重視の奏法などを工夫してみる。
- (3) 出だしや終わりの合図は、和楽器アンサンブルらしく掛け声や相談して決めた音を使う。

作品づくりの例

打ち物と三味線、箏で、一丁三分程度の部分から成るアンサンブル

- (1) 「何かが起こりそうな予感」
太鼓以外の楽器で即興的に演奏する。遅かったり、速かったり、気まぐれなモチーフで。
- (2) 「遅い曲」
太鼓のゆっくりしたりリズムの上に、三味線、箏、笛のゆっくりした掛け合い
- (3) 「複数の太鼓による掛け合い」
だんだん速くなっていく。
- (4) 「速い曲」
太鼓の特徴ある速いリズムの反復の上で、三味線、箏、笛の細かいメロディーが盛り上がって終わる。

- (5) 曲の構成に合わせて振り付けを工夫する。



学習課題5 発表会を開きましょう

発表会を企画して、ダンスと和楽器の総合的表現を発表しましょう。また、発表について講評を述べ合いましょう。

発表・講評の記録



31 ジャパン・パーティーの企画演出

1 学習目標

「日本の伝統・文化」の学習を通して学び、理解してきたことの総まとめとして「ジャパン・パーティー」を企画し、開催する。それによつて、今後ますます盛んになる国際交流において、日本を紹介し、日本の魅力について語ることができる表現力を身に付け、海外の人々と楽しく交流できるようにする。

2 学習内容

- (1) ジャパン・パーティーの企画
- (2) 日本を紹介する内容を英語で表現する活動
- (3) ジャパン・パーティーの開催

1 ジャパン・パーティーの企画

これまでの「日本の伝統・文化」の学習をもとに、海外の人を招いて日本を紹介する「ジャパン・パーティー」を企画しましょう。

学習課題1 日本についての再確認をしましょう

私たちが日本について既に知っていたり、普段は気にかけないようなことでも、外国で生まれ育った人々にとっては日本を知る大きな手掛かりになることがあります。ジャパン・パーティーの企画準備として、ま

ず次のことを再確認しておきましょう。

- (1) 日本についてのQ&A

地理

| | |
|--------------------------------------|--|
| 日本の総面積はどのくらいですか。 | |
| 日本列島をなす島の数はいくつですか。 | |
| 日本の山や川の特徴は、どのようなことですか。 | |
| 民族的にはどこに属しますか。 | |
| かつての日本、また現在の日本には、どのような民族の人々が住んでいますか。 | |

気候や季節

| | |
|---------------------------|--|
| 日本の属する気候の名称は何ですか。 | |
| 日本に見られる季節の特徴は、どのようなことですか。 | |

日本に住む人々

・日本の総人口

・かつて、また現在、日本に住んでいる民族について
日本語について

・日本語で使用する文字と、その成り立ち
日本を一言で表現する言葉を考えてみましょう。

(2) 同じように、みなさんの住む東京について、地理や季節の特徴、人口や暮らす人々についても整理し、まとめてみましょう。

学習課題2 ジャパン・パーティーを企画しましょう

(1) グループごとにパーティーの計画を立てましょう。

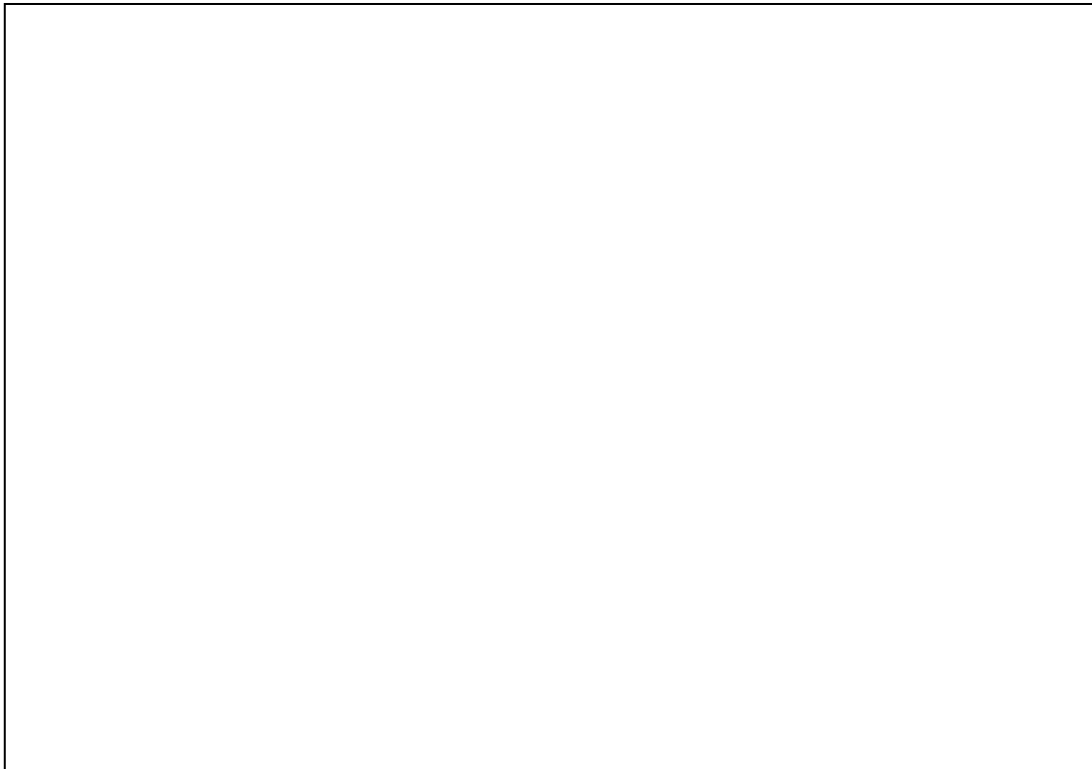
これまで学んできた「日本の伝統・文化」から、海外の人に伝えたいと思ったことを取り上げ、日本を紹介できるパーティーになるように話し合みましょう。

(2) パーティーの内容をグループごとに発表してみましょう。

パーティーで紹介する内容をグループごとに発表しましょう。また発表を聞いて、招待される外国の人々になりきって、日本についての質問をしてみましょう。

(3) ジャパン・パーティーの招待状を作ってみましょう。

「日本の伝統・文化」で学習してきた内容を盛り込んで、パーティーへの招待状を作りましょう。



英語でつくる招待状

学習課題3 ジャパン・パーティーを実際に行いましょう

| 日時 | 場所 | パーティーの内容 |
|----|----|----------|
| | | |

| タイムスケジュール | 工夫する演出 |
|-----------|--------|
| | |

日本の伝統・文化理解教育推進会議委員名簿

| | | |
|--------------|--|-------------|
| 澄川 喜一 | 島根県立芸術文化センター長 横浜市芸術文化振興財団理事長 新制作協会委員、日本芸術院会員 東京芸術大学名誉教授 | 平成十七年四月一日 |
| 高浦 勝義 | 明星大学教授 | 平成十七年四月一日 |
| 中村 哲 | 兵庫教育大学教授 | 平成十七年四月一日 |
| 佐野 靖 | 東京芸術大学音楽学部教授 | 平成十七年四月一日 |
| 竹内 誠 | 江戸東京博物館館長 | 平成十七年四月一日 |
| 恵 小百合 | 江戸川大学教授 | 平成十七年四月一日 |
| 近藤 精一 | 東京都教育庁理事 | 平成十七年四月一日 |
| 井出 隆安 | 東京都教育庁指導部長 | 平成十七年四月一日 |
| 岩佐 哲男 | 東京都教育庁指導部長 | 平成十七年四月一日 |
| 事務局名簿 | | |
| 岩佐 哲男 | 東京都教育庁指導部企画課長 | 平成十七年四月一日 |
| 宮川 保之 | 東京都教育庁参事（指導部指導企画課長事務取扱） | 平成十八年三月二十一日 |
| 宮本 久也 | 東京都教育庁指導部主任指導主事 | 平成十七年四月一日 |
| 伊東 哲 | 東京都教育庁指導部主任指導主事 | 平成十八年三月二十一日 |
| 儘田 文雄 | 東京都教育庁指導部指導企画課統括指導主事 | 平成十七年四月一日 |
| 池谷 芳彦 | 東京都教育庁指導部指導企画課指導主事 | 平成十七年四月一日 |
| 平井 邦明 | 東京都教育庁指導部指導企画課指導主事 | 平成十八年三月二十一日 |

東京都立学校設定教科・科目

「日本の伝統・文化」教材集

東京都教育委員会印刷物登録 平成十八年度 第一六五号

平成十八年十一月二十六日

発行 東京都教育庁指導部指導企画課

（所在地 東京都新宿区西新宿一八一 電話 〇三・五三〇・六八三六）

研究委託先 東京芸術大学

カリキュラム開発共同研究者（五十音順）

| | | | |
|------------------------|------------------------|-----------------|------------|
| 青柳 路子 | 美術学部教育研究助手 | 塚原 康子 | 音楽学部助教授 |
| 佐野 靖 | 音楽学部教授 | 成清 美朝 | 美術学部教育研究助手 |
| 杉本 和寛 | 音楽学部助教授 | 西岡 龍彦 | 音楽学部助教授 |
| （編集者） | 美術学部非常勤講師 | 本郷 寛 | 美術学部助教授 |
| 杉本 昌裕 | 跡見学園女子大学文学部 人文学科助教授 | 三田村有純 | 美術学部助教授 |
| 平 佳史 | 美術学部教育研究助手 | 光井 涉 | 美術学部助教授 |
| | | 山下 薫子 | 音楽学部助教授 |
| 研究協力者及び団体（五十音順） | | | |
| 大山 進 | 日本相撲協会相撲教室所長 | 宇宙航空研究開発機構 JAXA | |
| 竹内 紋子 | 彫刻家 跡見学園女子大学特別研究助手 | 江戸東京たてもの園 | |
| 中川 俊宏 | 国立文芸論壇推進課課長 | 折形デザイン研究所 | |
| 山下 泰裕 | 東海大学体育学部教授 | 全日本柔道連盟 | 日本棋院 |
| 米長 邦雄 | 日本将棋連盟会長 | 日本将棋連盟 | 日本相撲協会 |

表紙

歌川広重「名所江戸百景

猿わか町よるの景」